

1 2022
vol.77

 沖縄県立中部病院 広報誌
Okinawa Chubu Hospital

シリーズ
第22回
ワンポイントアドバイス
「栄養管理室」

がん治療において、食事は体力や免疫機能の維持・
増強を図る上で欠かせない要素です。

しかし、治療による副作用等の影響で、味覚異常、
嗅覚異常、口内炎、吐き気、便秘・下痢など様々な症
状が出現することもあります。そのため、食事を食
べたいけど食べられないという方もいらっしゃい
ます。栄養状態が悪くなり、体力が低下してしま
うと治療を継続することも難しくなってしまいます。

中部病院では、がん治療食としてDEIGO食(デイ
ゴ食)を用意しています。

名称の由来は沖縄県の県花デイゴに因んでおり、そ
の花言葉は「夢、活力、生命力、和」です。人は食
ることにより活力(くんち)が沸いてきます。患者さん
がご自身の夢を叶えるため、生命力で病気に打ち勝
って欲しいという願いを込めて名付けました。

DEIGO食は、入院期間が長くなった患者さんが病
院食に飽きてしまって更に食欲が低下してしまう
ことを想定し、小椀の麺類や丼物、お茶漬け、ジュー
シー、いなり寿司、カレーなどを少量で食べやすく

盛り付けて、バラエティに富んだ献立するよう心がけ
ています。

DEIGO食以外にも、入院中の食事内容、退院後、自
宅での食生活など、お気軽に管理栄養士にご相談下さい。
みなさんの食べる喜びに寄り添い、サポートさせてい
ただきます。



管理栄養士 知念 実里

食べて「くんち」をつけよう



がん相談支援センターをご活用ください

がんと診断されたとき
「これからどうしたらいいの？」と思ったら
がん相談支援センターをお尋ねください。
相談員が一緒に考えます。

がん相談支援センターからのお願い

I 仕事はすぐに辞めないでください

(安定した生活や治療のためだけでなく仕事は生きがいに
繋がります。)

I 患者会を月1回 開催しています

(コロナ禍で中止や日程変更があります。ご確認ください。)

I 貴方にあった情報を集めましょう

(他の人や話やネット情報に惑わされないでください。)

よくある相談は

- ・仕事は？同僚にはどう話したらいいの？
- ・家族にどう伝えたらいいの？心配をかけたくない
- ・お金のこと大丈夫かな
- ・先生の話がよくわからなかった。呑み込めなかった
- ・先生が勧めたこの治療でいいの？
- ・セカンドオピニオンについて
- ・同じ病気の人と話をしてみたい

62 地域医療連携室・入退院支援室
がん相談支援センター

患者相談窓口

がん相談支援センター

治療方針やお仕事、お金や生活のことなど、
どんなことでも気兼ねなくいつでもご相談ください。

2Fフロア

62 地域医療連携室・
がん相談支援センター
入口

心電図検査
採血室
図書コーナー
生理検査室

採血室56番の向かいにあります。

お問い合わせ先

がん相談支援センター
沖縄県立中部病院
本館2階
TEL:098-973-4111
内線 3232

ゆい
ちゅうぶ



謹賀新年

表紙 令和4年新春管理者一同

pick up! 緩和ケアサポートチームの紹介

A day in the life of... ~消化器内科医の1日~

各部署の紹介 一周産期病棟ってなあに? -

コメディカルワンポイントアドバイス ~食べて「くんち」をつけよう~





緩和ケアサポートチームを ご活用ください

中部病院 緩和ケアサポートチームとは

緩和ケアを必要とする患者さんが日常生活や治療に前向きに取り組めるよう、身体的・精神的な痛みを和らげるチームです。
痛み以外の症状(吐き気、息苦しさ、眠気、だるさ、気持ちのつらさ)などがあるときもご相談下さい。

緩和ケア在宅医療チームとは

緩和ケアサポートチームでは在宅療養を希望される方への相談支援を行っています。地域の訪問診療を行っている医療機関と連携して在宅療養をサポートさせていただいている。

※在宅医療件数、お看取りの件数は下記の表を参照ください。

対象とする患者さんは

- ・中部病院がかかりけであることが必須です
- ・限られた時間を過ごしている。
- ・住み慣れた自宅や施設での時間を本人やご家族が希望されている。

※中部病院では訪問看護は行っておりません

	在宅療 総数	自宅 看取り	自宅以外 看取り
2014年	49	33	16
2015年	93	53	40
2016年	64	30	34
2017年	53	23	30
2018年	41	26	15
2019年	38	30	5
2020年	39	36	3

痛みやつらさは我慢せずにご相談下さい！

がんの苦痛や悩みを抱える患者さんへ (ご家族の皆様へ)

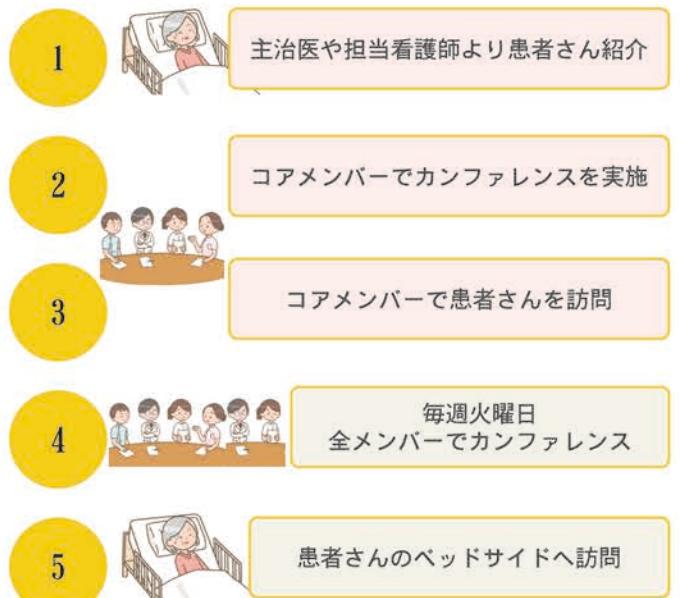
がんと診断されてから一人で悩んでいませんか？
体の痛みや倦怠感、落ち込みや喪失感など精神的な苦痛
これから先のことを考えると不安で眠れないなど…
このような悩みを抱えていると気持ちも沈んでしまいます。
患者さんが日常生活や、治療に前向きに取り組めるようがん治療と並行して行う、身体的・精神的な痛みを和らげるケアがあります。
それが緩和ケアです。

中部病院には、緩和ケアをサポートするチームがあります。
がん診断に携わる医師・看護師・薬剤師・心理士・リハビリ専門のスタッフ・管理栄養士・歯科衛生士・がん相談員などがチームになって連携しながら、主治医と共に患者さんやご家族の皆様をサポート致します。

痛みやつらさを「病気だから仕方仕方ない」とあきらめずに、まずは主治医や担当看護師、または下記のお問合せ先までご相談下さい。

がん以外の病気で同じような悩みを抱えている患者さんも、まずはご相談下さい。

緩和ケアサポートチームへの依頼の流れ



緩和ケアチームへの依頼件数は2019年に落ち込みましたが2020年に回復して、ほぼ横ばいです。(参照:緩和ケアチームへの依頼件数)
また、依頼時の症状は「痛みの緩和」が一番多いです。(参照:2020年の依頼時の症状)



お問合せ先

沖縄県立中部病院 本館2階
緩和ケアサポートチーム
(がん相談支援センター内)

TEL:098-973-4111 内線 3232



第19回 A day in the life of ○○ ○～病院で活躍する職員の1日～

消化器内科医 の一日

7:30 出勤 カンファレンス

曜日毎にスケジュールは違いますが、外科とのカンファレンスや、レクチャーなどに参加します。
夜間の担当患者の状態や、救急からの入院患者のチェックを行います。

8:45～10:00 総回診

週に2回、新規に入院になった患者さんをグループの医師全員で治療方針の共有を行います。

総回診



9:00 or 10:00～ 持ち場に分かれて仕事

・外来業務:週に1回消化器内科の外来を行います。
近くのクリニックからの紹介や、定期検査予定の方の日程調整、定期处方の方、がんの方の化學療法などの治療を外来で行っています。

・病棟回診、救急担当、コンサルト担当:病棟には常に40～50人程度の方が入院されています。研修医とその日の患者の状態をチェックし回診を行います。他の科から消化器の病期について相談(コンサルト)があれば対応します。

・内視鏡業務:外来業務、病棟回診業務の日以外は内視鏡の業務を行っています。午前中は胃カメラの検査があります。



16:30 夕回診

研修医とともにパソコン上の情報確認・ベッドサイドでの診察で、日中の患者さんの変化を確認し方針を決定します。

17:30 業務終了

消化器内科はカバーする領域も広く、検査や処置の種類や量も多く忙しい分野ですが、その分やりがいも大きい分野になります。胃がん、食道がん、大腸がんなどは早めに発見すれば内視鏡でも完治できる時代です。現在は残念ながら進行されて見つかってしまう方も多いです。もっと消化器内科医が増え、胃カメラ、大腸カメラなどの内視鏡による検診の敷居が低くなることを願いつつ日々診療しています。

各部署の紹介 周産期病棟

『妊産婦へ細やかな心配りと笑顔で寄り添う看護をめざして。』



周産期病棟はMFICU6床・産科病棟29床・COVIDなど感染症を受け入れ対応できる6床を有する41床の病棟で、看護師・助産師・看護補助員・クラーク合わせて66名の大所帯です。総合周産期母子医療センターとして、産科医と協働しハイリスクの妊婦・産婦・褥婦を24時間体制で全県的に受け入れケアにあたっています。

年間の分娩件数は1000件を超えており、他施設からの紹介のハイリスクも多く、早産や2500g以下の低出生体重児の出産、帝王切開による分娩も450件ほどになります。このようなリスクの高い妊産婦へ安心して妊娠・出産・育児に臨めるよう、外来診療時より病棟から看護師・助産師が関わり妊娠期の保健指導や面談、退院後には母乳外来や産後2週間と1ヶ月での産婦検査を実施しています。

入院中は母児同室、育児技術取得のための保健指導を行っています。COVID陽性の妊産婦も受け入れ、感染対策を行いながらのケアや初めて見聞きする薬剤の管理投与など負担もありながらも日々の研鑽、妊産婦へ細やかな心配りと笑顔で寄り添い看護の提供に取り組んでいます。

